

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402192		
法人名	社会福祉法人 杏寿会		
事業所名	グループホームあけぼの		
所在地	長崎県南島原市布津町乙674-3		
自己評価作成日	平成 30 年 10 月 8 日	評価結果市町村受理日	平成 30年 12月 14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成30年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者が毎日楽しく充実した生活をして頂くために、コミュニケーションを大切に、ADLの低下を防ぐ為に毎日の訓練(入所者一人一人に合わせ、歩行訓練、起立訓練、車椅子自力駆動)を行っている。そのおかげで下肢筋力の低下予防・維持回復を行っている。又、昨年より、グループホームで夏祭りを実施し、入所者や職員の家族、近所の方等に声掛けを行い、たくさんの方々に参加して頂きました。職員の手作りの食事を頂きながら、金魚すくい、ヨーヨー釣り、スイカ割り、花火等の催しを行い、皆さん、昔を思い出し、ご家族と一緒に笑顔がたくさん見れたと思います。他にも、地域の祭りや文化展作品展示などへの参加、季節の行事として、ドライブやハイキング、法人合同での慰問や祭り、カラオケ大会などへ参加することで知り合いの方と会話ができたり、地域との繋がりを続けることができ、認知症の進行を防ぐ事が出来、今までの生活に近い環境作りにも力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、運営理念の『入居者の基本的人権の保護』『安心して家庭的な生活が送れるような支援』『生き甲斐を持つ生活の支援』『明るく、楽しく、自分らしく、笑顔のあるホーム…だから幸せ』を職員全員で毎朝唱和し、入居者が自分らしく過ごせるためのケアの共通理解に努め、支援に取り組んでいる。また、市民清掃や文化展への作品展示・こびら祭り・神社のお神輿参拝などへ参加され、地域住民との交流を深められている。ホームでは様々な行事(誕生会・書道・ちぎり絵・ドライブ・家庭菜園等)が行われ、入居者が楽しく充実した生活が送れるよう支援に努められているほか、全ての職員が入居者の尊厳保持としてのケアのため介護者としての心得(年長者を敬う心で接する、丁寧な言葉遣い等)を策定し、常に入居者家族への対応や言葉遣いへの配慮がなされている。居室や共用スペースは隅々まで清掃され明るく清潔感があり、居心地の良さへの配慮がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼後に全職員で運営理念を読み上げ、唱和することで、理念の共有、実践につなげている。又毎日唱和する事で職員の意識付けを行います。	ホームでは、毎朝の朝礼でリーダーを中心に全職員で運営理念を唱和し、理念の共有と実践に取り組まれている。玄関にも運営理念の書が掲げられており、職員は常に心掛けるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入ることで地域とのつながりを保ち、地域の行事への参加を行っている。 例)市民清掃、文化展作品展示、こんぴら祭り、神社お神輿参拝、等に参加して地域との繋がりを深めている。	ホームは自治会へ加入し、地域とのつながりや関わりを大切にされている。市民清掃や文化展への作品展示、こんぴら祭り、神社のお神輿参拝などに参加し、地域住民との交流に努められており、地域にとって必要な事業所であることが窺われる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	おやつや衣類等の買い物は定期的に近所のスーパーや洋服屋に行き地域の方々へ認知症の理解を深めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括支援センターの職員の方、地域代表者、入居者やそのご家族で集まり、活動報告、質疑応答の時間を設けて、ホームに対する意見やアドバイス等を頂き、サービス向上に活かしています。5月、9月に実施している。	運営推進会議は、地域包括支援センター職員・地域代表者・入居者や家族の参加があり、議題は委員の方々へ確認し決定している。ホームは参加者からのサービスの評価や助言を真摯に受け止め、サービスの向上に努められている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	更新申請や広域への書類の提出など、支所に出向いた際に市の職員と情報の交換など協力を行っている。	ホームは、入居者の介護保険関係やその他提出書類の手続き等で市の窓口へ行った際に市職員との情報交換を行っており、日頃から連携を取るよう努められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対して、月1回の全体カンファレンスで身体拘束委員会を設け話し合いを行っている。又、法人内で、講師を招いての研修を9月に行っている。	ホームでは身体拘束「ゼロ」に向けて、車椅子を利用されている方も日中はできるだけ椅子へ移乗し過ごして頂き、ベッド横のセンサーコールに関しても見守りのために使用しており、身体拘束を行わない介護の実践に取り組まれている。本年2・5・9月には身体拘束委員会を開催され、9月には法人内で講師を招いて研修も行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で虐待防止の研修を行っています。又、外部での研修にも参加し、職員同士で声掛けを行い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設外研修で成年後見人制度に関する研修に参加し、必要に応じて、関係者と話し合いを行い、支援できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の説明を行い、ご理解を頂いている。疑問などがある場合はご家族が理解できるように随時説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理の窓口、意見箱を設けている。又、外部の公的機関への連絡先も記載しているので、そちらからの連絡も反映させる。	ホーム入口には意見箱が常設されており、管理者や職員は家族の面会時に意見や要望を伺っている。年1回開催される家族会での内容と併せて運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時や月1回の職員会議で職員の意見を聞き、話し合いを行い、ケアの統一を行っている。連絡ノートにて、全職員が共有できるようにしている。	施設長は毎月末に開催される職員会議で職員の意見を聴き、入居者へのケアの統一や向上・改善に向けた取り組みなどと併せて話し合いを持つよう努められている。会議に参加できなかった職員に関しては連絡ノートを活用し、情報の周知・共有が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力に応じ、レベルにあった指導を心掛け、向上心を持ち続けるように努めている。職員の声を基に働きやすい環境を作っていけるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人に合った施設内や施設外の研修に参加してもらい、知識や技術の向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島認知症対応型共同生活介護事業所連絡協議会に所属し、定期開催の施設長会議での情報交換、研修会、行事への参加など、協力を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず事前面会を行っている。その時に入所に関して不安なこと、困っている事、などを聞き、入所後の関係作りに心掛けている。環境の変化をなくせるように写真やテレビ等で少しでも不安をなくして頂けるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族からお話を伺い、本人のこれまでの生活歴の聞き取りを行い、ご本人の想いに沿ったケアができるように不安の解消を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスを利用している際には、担当ケアマネージャーや他職種の協力を仰ぎながら、現在の支援をホームでも引き継げるよう努めている。又、どのような生活を送りたいのか意向を聞きながら、ケアの方向性を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人にホーム内での役割をもってもらう事で、共に生活を行っていることを感じてもらう。残存機能を生かせる本人の役割をもっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な面会をお願いすることで、ご家族も本人様を支援していることを伝える。又、ご本人の希望に沿い、ご自宅へ一時帰宅する等ご家族にも協力を依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係がある場合は、面会をお願いする。もしくはこちらから出向くなど関係が途切れないよう支援に努めている。又、ご本人の馴染みの場所等を聞き、外出の支援を行っている。	ホームでは入居者の馴染みの関係が継続できるよう、共用スペースや居室いずれでも会話を楽しめるよう花を飾るなどの配慮がなされており、地域の方が訪れやすい環境の整備に努められている。また、お墓参りへの付添いや入居者の誕生日には自宅で過ごせるよう外出支援も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的に食事の席替えを行うことでいろいろな方ともコミュニケーションがとれるように職員が間に入り、会話が出来るような雰囲気作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了しても、随時相談には応じるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の聞き取り、定期的の意向を聞く機会を設けている。困難な場合は、ご家族への協力もお願いしている。	ホームでは入居前に生活歴や趣味嗜好などを聞き取り、入居者一人ひとりの自分らしい暮らしの実現に向けて日々取り組まれている。中庭(テラス)には盆栽や家庭菜園、ホーム玄関前の池には金魚が飼われるなど入居者が楽しめるような工夫がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のヒアリングで、入居者の状態を本人・家族・病院、施設より情報収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中・夜間は記録シートに生活の様子を記録することで、その場にはいない職員も細かい部分まで把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成に関しては本人・家族・介護職員と共に話し合いを行いながら、作成を行う。日々の生活状況に関しては処遇記録を基に今後の課題を見つけている。	介護計画は、入居者の生活歴を踏まえその方らしい生き方を家族と話し合い作成されている。職員は日々の介護記録をもとに入居者の尊厳を遵守した支援の実現へとつながるようケア内容の改善や生活意欲の向上に取り組まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	処遇記録の上段にケアプランを記載して、常にケアプランを確認しながら、支援や見直しができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の入居者の訴えに関しては、その時にあった対応を心掛け、施設内に関わらず、外部社会資源も活用するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントごとには積極的に参加している。季節にあった地域資源を活用し、支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一つの医療機関に偏るのではなく、入居前からお世話になっている医療機関等を利用している。又、病状にあった専門医への受診も家族と相談しながら、支援を行っている。	かかりつけ医の往診は、入居者本人及び家族の意向に応じて支援されており、入居前から利用していた主治医からの往診にも対応されている。また、状態により専門医の受診の支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師からの処置の指導等、訪問看護師ノートを作成し、職員のケアの統一を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	連携室との連携により、入退院をスムーズに行っている。退院後もアドバイスをもらいながら、支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関、家族、施設と協議を行い、重度化に伴う問題を総合的に考えることにより、本人様が一番いい形を選択して頂けるような環境を整える手助けを行っている。個人記録等、別用紙を作成し、状態把握に努めている。	看取りについては、本人・家族への意向の確認や話し合いを行い支援に取り組まれている。職員は医療機関へ入居者の状況報告を毎日行い、家族にもその都度伝えている。また、ターミナルケア用の個人記録を作成し、全職員が日々の状態を把握できるよう努められている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変した際のマニュアルの作成を行い、緊急の際はいち早くご家族、医療機関へ連絡できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災時の初期対応、避難誘導の手順の確認を随時行っている。町内会にも加入している為、その都度、協力をお願いをしている。消防避難訓練を今年は5月9月に行っている。	ホームでは火災や地震などを想定した避難訓練を定期的に行い、災害に備えられている。本年5月と9月には町内会参加による消防避難訓練を実施されており、地域との協力体制が築かれている。また、居室仏壇ではLED線香を使用するなど火災等を未然に防ぐための対策もなされている。	昨年、防災計画(防災マニュアル)は独自に作成し防災訓練(地震)を実施されているが、防災計画(防災マニュアル)の職員への共有については更に周知徹底することが望まれる。備蓄品一覧表は作成中であり、備蓄品を適切に管理できるよう一覧表を早期に整備することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊厳の気持ちを持って接している。共同空間でのプライバシーへの配慮もおろそかにならないようにしている。	職員は入居者の尊厳に配慮した対応に努められている。帰宅願望がある場合には、職員や家族による対応を行っており、排泄の失敗があった際には他の入居者の目に留まらぬよう別の場所で更衣や清拭を行うなどの配慮がなされている。また、出来ることは自分で出来るよう自立支援に努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事にも行動を行う場合には、必ず声かけを行い、本人の自己決定を優先している。本人の思いを聞きやすい雰囲気作りを行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせて、声かけ、誘導介助を行っている。利用者の希望で、その日の内容を決めたりすることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、まずは身だしなみを整え、歯磨き、洗顔を行ってもらっている。希望に応じて、パーマやカラーも行えるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を毎日掲示したり、定期的な行事食で、個人の好みに合ったパン食や好きなものを盛り込むようにしている。誕生会には手作りケーキを作り、食べて頂いている。飾りつけは入所者と一緒に行っている。	ホームでは、食事の前に口腔体操を毎回行うことで入居者の誤嚥を予防するよう努められており、食事を楽しくするように取り組まれている。また、食材は入居者が食べやすいようミキサー、刻み、柔らかめ、トロミなど工夫されており、時には菓子パンを、一人ひとりの好みに合わせて購入し、提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取は1日数回時間を設けて摂って頂いている。又、管理栄養士による献立により、栄養バランスのとれた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを行うよう、誘導介助を行い、自力にて口腔ケア出来る人には行ってもらい、出来ない方は、声かけ、一部介助、全介助を行っている。又、必要に応じて、歯科受診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎回、排泄表への記入を行い、排泄感覚の把握を行い、少しでも失敗をなくす取り組みを行っている。又、オムツ使用者を減らす努力も行っている。	ホームでは入居者個別の排泄パターン記録があり、職員は排泄間隔を理解し声掛けや誘導を行っている。ホームでは適切な排泄支援の取り組みによってオムツ利用の方は少なくなり、リハビリパンツ・尿取りパットなどで対応されており、排泄の自立支援に努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の歩行訓練・水分摂取量の増加、必要に応じては、便秘薬・下剤も使用するなどして、定期排便を目指す。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的に入浴を行ってもらっている。その方に応じ、一般浴、リフト浴を使い、状態に合わせて、入浴を楽しんで頂いている。本人の都合もできるだけ聞いている。	ホームでは週3回の入浴支援が行われており、必要に応じて毎日入浴も可能となっている。入浴の種別も一般浴・リフト浴があり、入居者が安心して心地良く入浴できるよう努められている。また、入浴する順番も入居者の希望に添えるよう配慮がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないよう、日中はレクやフロアで過ごして頂くよう声かけを行い、夜にぐっすり休んで頂くよう支援している。眠れない場合は主治医と相談し、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時に医療機関との確認を行っている。また、薬情を個人処遇に挟んで、介護職員は、常に確認できるような体制を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴にあった支援ができるように希望を聞きながら、又、ご家族にも相談しながら、喜んでもらえるような支援を行う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じ、外出支援を行っている。誕生日には本人の行きたい所、自宅や馴染みの場所等への外出の支援を行い、ご家族の方にも喜ばれていた。誕生日には好きな食べ物を食べに外食支援も行っている。	ホームでは散歩でコスモス畑へ出かけたり、月に1回はドライブや買い物での外出がある。また、誕生日には「すしを食べたい」などの利用者の希望に応じた支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる人には、金銭管理を個人で行ってもらっている。管理できない方には施設管理やそれにかわる管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が届いた際は本人へ届けるようにしている。また、手紙の返事を書く支援を本人としている。電話の希望や取次も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の物を飾るなどして、季節感を楽しんでもらっている。(職員の手作りや入居者様の手作り等)エアコンを利用し、適正温度は保つが、季節に合った服装で、季節感を忘れないようにしている。	4~5名の入居者が一緒に季節のちぎり絵などに取り組まれており、出来上がった作品はホーム共用スペースや廊下に飾って楽しませている様子が窺えた。各居室や共用スペースにはエアコンがあり、適切な温度管理がなされており、衣類に関しても季節に合ったものを入居者へ提案されている。	ホーム共用スペースのエアコンの吹き出し口にはホコリが見られたが、本年11月12日より全箇所の入替を予定されている。また、建物中央のテラス(木製)には補修跡があり危険箇所であるように窺われたが、床材が浮いて転倒の危険がある為赤い印をつけて危険であることを認識して頂けるような配慮がなされており、来年2月には床材の張替を予定されている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを設置し、和室でもくつろいでもらえるよう環境を整えている。又、居室への訪問も自由に行っていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベッド・畳を選択して頂き、本人にあった家具を使用してもらっている。馴染の家具や道具を持参してもらうようお願いをして、写真や賞状、小物などを飾っている。	ホームでは居室は基本的に洋間となっているが、畳を好まれる方については和・洋間の選択ができる。また、テレビ・冷蔵庫・整理筆筒の持ち込みについては火器類以外は持ち込み可能となっており、写真や仏壇が飾られた入居者が落ち着ける居室となっていることが窺われた。	居室のポータブルトイレに目隠し用布の準備はあったが、目隠しされなかったため目隠し等を行い、配慮することが望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は手すりがある為、歩きやすい。また、トイレにはトイレと分かる様、目印をつけ、居室が分からない方には、本人の名前を大きく記載している。安心して生活できるように工夫をしている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 日棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者一人一人に満足して頂けるよう、運営理念を掲げ、理念に基づいて、介護にあたっている。又、毎日唱和する事で職員の意識付けを行います。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事ごとへの参加、交流をしている。又、事業所のイベントなどの案内を出し、参加して頂き、交流を行っている。秋祭りの案内等。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所に入所申し込みに来られる方々にその人にあった福祉サービスを専門職として相談に乗り、ご案内している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター・市議員・入居者様・ご家族様・当職員のメンバーで活動内容報告や意見交換を行い、サービス向上に向けて話し合いを行っている。6月と9月の2回、行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	親しくしている市議会議員さんからの市政の情報や悩みなどを相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、身体拘束委員会を開催し、極力身体拘束を行わないように検討を行っている。現在、身体拘束は行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法に関し、施設内研修を設け、意見交換を行い、知識向上に努めている。9月25日、法人内にて虐待防止の研修に参加した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、研修機会を設けているが、対象者が入所された場合には活用できるようにしたい。今の所は利用されている入所者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、担当を決め、説明不足がないように心がけている。家族の方の不安や利用者の不安を少しでも軽減できるよう、配慮に努めている。今年は新入所、退所者いない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	必要に応じ、家族会を開催し、ご家族からの要望に対応、説明できるようにしている。又、面会に来られた時などにも家族の方に最近の状態などの説明に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期開催の全体会議で、施設長や管理者へ職員の意見を聞いてもらう機会を設けている。又、その日にいない職員に関しては連絡帳を通して職員に伝えている。月に1回、法人合同の全体会議にも参加している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力に応じて、レベルにあった指導を心掛け向上心を持ち続けるように努めている。職員の意見にて働きやすい環境作りに努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修を始め、色々な研修に行く機会を設け、介護のレベルアップに努めている。GH連絡協議会の研修会には参加している。参加できていない職員には報告を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会でさまざまなイベントを行っている。それに参加し、職員間の交流を図っている。風船バレー大会、定期的な研修会等。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にサービスの説明を行い、ご本人の意向の確認を行いながら、入所前の関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の事前相談を利用し、施設内の説明を行い、ご家族の思いを聞き、少しでもご家族、ご本人のご意向に沿えるように検討する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用しながら、他のサービスの必要性があれば、ご家族とサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いの悩み相談を行うなど、暮らしを共にするものとして接している。人生の先輩として、話をする事で影響を受けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への定期的な面会をお願いしている。その他、ご希望の場合は、ご自宅への送迎を行い、家族で過ごせる時間の支援を行っている。誕生日等、本人の希望があれば、自宅までの送迎を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブなどの外出支援に関しては、皆さんの行きたいところの希望に沿って行っている。初詣には近くの神社に行き、馴染みの宮司さんと会話をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事は4人一組で行ってもらうようグループを作り、定期的に希望を聞き席替えを行っている。又、レクリエーション等、班対抗で行い、協力しあい、楽しみを分かち合っておられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、必要に応じては相談にのれることも話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人に聞き取りを実施し、その人らしいケアを本人、ご家族、職員が検討を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報作成前に、本人の生活歴をご家族やご本人からも聞き取り、今までの経過を元に把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	処遇記録を作成し、本人の一日の生活を記録し、無理のない生活のサポートを行っている。職員の気づき等、その都度記録し、まとめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や家族の意向をよく聞いた上で定期的に担当者会議を開き、生きがいのある生活を送ってもらえるような介護計画作成に取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	処遇記録、連絡ノートを活用するなど、情報共有を行いながら、介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	楽しんで頂けるレクの考案や安心して過ごして頂ける環境環境づくりに努めている。また、可能な限り、希望に合った支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人内慰問のボランティア様による催し物の見学に行っている。又、職員や家族からの情報で外出支援を企画し、外出支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を大切に、昔からの状態を分かっている医療関係者をお願いしている、必要に応じては他の医療機関受診も検討している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護看護師来荘時に、医療的な注意事項、知識の習得など、アドバイスを頂きながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	本人、家族の意向を大切にしながら、施設での対応可能なケアも相談し、必要な場合は、病院入院も検討している。連携室と連絡を取り合うなど、対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、終末期のケアをどのように行うのか本人、家族、施設で確認を行いながら、必要に応じ、外部サービスをすすめるなど、柔軟な対応を行っている。入所時に終末期の医療についての事前調査書の記入をして頂き、本人、家族の意向を確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法のスキル習得など、緊急時に対応できるよう、知識向上に励み、関係医療機関からの指示を仰ぎながら対応を行う。毎年1回(7月)、法人合同にて救急法の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害時に動けるよう、定期的な訓練を行い、入所者の安全に努めるよう努力している。また、定期的に、施設内外の点検を行っている。年に3回、消防避難訓練を行っている。現在、5月と9月に行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合った言葉かけを行っているが、なれ合いになりすぎた場合などは、職員間で注意を行うなど、言葉かけには注意している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段より本人様から希望を気軽に話せる雰囲気作りをしている。自己決定が難しい方に関しては、具体的な内容に絞ったり、工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちや体調を優先し、その方のペースで過ごしてもらえるよう希望を聞きながら働きかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の身だしなみはご本人様にお願いをするが、手直しが必要な場合は行い、衣類に関しても、季節に合った衣類をすすめたり、意向に沿ったおしゃれをしてもらう		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会の食事の飾りつけや、季節のおはぎやお菓子作りを一緒に行っている。食後の下膳やごみ捨て等、役割を持って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の食べる量を個別に調整を行い、水分を多めにとってもらうなど健康管理に気を遣う。食事摂取量が減って来られている方には主治医と相談し、補助食品をつけるなどの支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きをすすめるなど、口腔ケアに関しても取り組みを行っている。必要な場合は、歯科受診も行っている。口腔ケアの研修に参加し、本人のできない部分のケアを支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	重度にならない限り、なるべくオムツに頼らないよう定時のトイレ誘導介助、2人介助による排せつ介助を行い、オムツ使用を減らすよう心掛けている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないよう水分の摂取、運動を行ってもらうよう声かけを行っている。本人の状態で、便秘薬の検討を主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴も声かけを行い、1人で入浴を行えない場合も、リフト浴を活用し、安心して入浴が出来るよう体制を整えている。本人の希望があれば、いつでも入浴できるような体制作りを行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室だけではなく、共用の和室スペースも活用し、休んでいただけるスペースを確保し、無理がないようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示に従い服薬を行い、注意事項も本人も説明を受け、副作用に対しても柔軟に対応できる仕組みを作っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持ってもらえるよう働きかけ、自分の居場所づくりを作れるよう支援している。本人の趣味や特技等を行って頂く事で昔話をしたり、笑顔を見ることが出来る。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望に応じ、買い物支援を行う。必要に応じてはご家族と買い物を楽しんでももらえるよう働きかけている。又、本人の意向を聞き、外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理に関しては、自由であるが、トラブルにならないよう声かけ対策を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や手紙に関しては、本人に直接かわるなど、制限を設けていないので、楽しみになるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	集団生活の中では、個々の好みがあるので、共用の場は、なるべくご本人の嫌な空間にならないよう聞き取りを行っている。自室に関しては、家族、本人の好みに合わせて部屋を作っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同のソファ、食事を囲むテーブルなど、一人にならないよう居場所に工夫を設けている。職員が間に入りコミュニケーションをとっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく本人が以前生活していた部屋になるようご家族にお願いをしている。ご家族、お孫さんの写真などを持ってきて頂き、楽しみの一環になっている。又、仏壇を持って来られている方もいらっしゃる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力を生かすよう声かけ、支援を行っている。安心した生活が送れるよう、日々工夫を行う。		